



Liberal Arts and Sciences

KOBE COLLEGE

Founded 1875

# NEWS LETTER

## NO.11

神戸女学院大学 公認心理師カリキュラム「心理実習」

## 神戸真生塾での学外実習



神戸市にある、「神戸真生塾」にて学外実習を行いました。神戸真生塾は、**福祉サービスを必要とする児童と家族**が心身共に健やかに育成され、あらゆる分野の活動に参加する機会を与えられるとともに、地域社会において必要な福祉サービスを総合的に提供されるよう**支援すること**を目的として、キリスト教の精神に基づき活動している**社会福祉法人**です。

児童養護施設・乳児院・子ども家庭支援センター(ロータリー子どもの

家)・幼保連携型認定子ども園・自立援助ホーム・小児科診療所を運営しています。今回は、主に**児童養護施設**についてお話を聞かせていただきました。

「児童養護施設 神戸真生塾」では、様々な理由で家庭や家族を離れて生活する必要がある子どもたちと共に、すべての職員が、**家庭的なホーム**をめざし、両親に代わって愛情と信頼にみちた明るい生活をしながら、**子どもたちの心身の健やかな成長を支援**しています。

## 実習指導者の先生のお話

加藤先生から、児童養護施設における心理士の取り組みについてお聞きしました。

神戸真生塾では、それぞれの児童に合わせた頻度で**個別心理療法**を行っています。対象児童に対して、年に1度**バウムテスト**を行っているというお話が特に印象に残りました。子どもが自身を知る機会になり、様々な言葉を引き出すことができるとおっしゃっていました。

心理士として働くにあたって、子どもの年齢がどれほど低くても、**インテークを丁寧に**行うことや、セラピーで知り得た**情報の取り扱い**を慎重にすること、**独自性を保持**することなどをとても大切にされているそうです。

施設の職員との情報共有によって児童の情報を**知りすぎてしまうがゆえの葛藤**など、お仕事上の難しさに関するお話もとても印象的でした。



上杉施設長から、**児童養護施設に関する現状**についてお話していただきました。

施設は以前の孤児院というイメージから、様々な事情で保護者とともに暮らすことができない子どもが生活する場所へと変化してきました。

その背景として**虐待**があります。日本では3年連続で虐待の相談件数が20万を超え、社会的意識の高まりが感じられます。しかし、相談件数のうち、実際に一時保護の対応がとられている割合はわずか10%ほどです。このことから分かるように、**一般家庭にも危機的状況にいる子どもは多くいます**。そのことを意識する重要性を教えてくださいました。

さらに、施設についてのお話もしていただきました。子どもたちは、各自の希望に合わせて、習い事・部活・アルバイトをすることができるそうです。このようなお話から、**厳しそうだと感じていた、児童養護施設での生活に対する認識が、大きく変わりました**。

実習全体を通して、貴重なお話をたくさん聞かせていただき、大変勉強になりました。

## 施設について

子どもたちが生活している、**児童棟**の中を見学させていただきました。

1つのユニットに2部屋あり、それらを行き来できる位置にスタッフルームがありました。ユニットの入り口にインターホンが設置されていて、私たちの家と同じように**守られた空間**であること、**家庭的な環境**が意識的に作られているということを感じました。部屋の中には、年齢によって観たい番組が違うことへの配慮から、テレビが2台あり、**子ども**



**たちのことを一番に考えているのだ**と感じました。

その他にも、**子ども家庭支援センター**としての役割を果たす本館は、「**地域にオープン**」というコンセプトで作られているため、土足で入館可能であることが、印象に残りました。



この度は、お忙しい中、大変貴重な経験をさせていただき、誠にありがとうございました。

上杉施設長、加藤陽子先生をはじめ、神戸真生塾の皆様、心より感謝申し上げます。

作成：松本  
写真撮影：吉川

編集後記

2023年10月24日